

修士論文(要旨)

2014年7月

産褥期母親のヘルパー利用の有無における比較研究

指導 山口 創先生

心理学研究科

健康心理学専攻

212J4951

セン ウン

## 目次

序論 .....	1
方法 .....	1
結果と考察 .....	2
引用文献	

## 序論

女性には妊娠・出産により急激な身体的変化が起こり、母親という新しい役割が加わることからの精神的ストレスが生じる場合もある（小林・遠藤・比江島・雨宮・長田・田辺・中村，2006）。特に初産婦は熱情，希望，喜び，満足感，幸福感，不安，抑うつ等いろんな異なる感情を体験し，精神的に不安定な状態になりやすい。出産後の母親の不安は，退院直後から退院 1 カ月までが最も増大し，それ以降一度減少し，子どもが 1 歳前後になると再び増大する（厚生労働省白書，2003）。また母親の不安は，子どもの成長・発達とともに変化するし（Mercer & Ferketich，1995），その要因として，産後 1 ヶ月の母親の育児に対する受け止め方が影響する（小林ら，2006）。この時，一番なりやすいのは産後うつである。

産後うつは産婦の心身だけではなく子供，家族関係，夫婦関係にも悪い影響を及ぼす。従って，適切なソーシャルサポートを受けることが極めて重要である。しかし，医療従事者などの不足などにより出産時の入院日数の短縮化，出産後に精神疾患の母親が活用できるソーシャルサポートが限られているのが現状である。

現代は家族構造や人間関係の変化により，プレッシャーのないサポートを求める若者が増えつつある。近年，「産褥期ヘルパー」という職業が流行ってきている。「産褥期ヘルパー」とは，産褥期間で産婦と新生児の世話をする専門の 24 時間体制のヘルパーである。科学的な栄養バランスが整った産婦の食事を作り，正確な哺乳方法を指導，産婦の家に泊まり込み新生児の世話をする（羅・王，2005）。

また，産褥期における母親のストレスとソーシャルサポートとの関連は多く散見されるが，産褥期の母親のヘルパー利用の有無における比較研究は極めて少ない。

そこで本研究では，ヘルパーは，住み込みで世話をするため，単なるソーシャルサポートとは異なり，産婦の心身の負担を軽減しストレス緩和効果が期待され，産後うつを防ぐ効果があると考えられる。さらに，そのような効果が認められた場合，ヘルパーを雇用しなくなっても，その効果が続くかどうかの 2 点を検討することを目的とした。

## 方法

対象者は 1 カ月乳児をもつ知り合いの母親 54 名であった。使用尺度は以下 4 つであった。

### ① 産婦と乳児のフェースシート

姓名，年齢，産後日数，学歴，職業，収入，胎次，分娩方式，妊娠合併症の有無，ヘルパー利用の有無，母親の身体状況，乳児の健康，乳児の性別

- ② 産褥期ストレスとストレス反応: The Hung postpartum stress scale (HPSS) 中国語版尺度 (Hung, 2001)。
- ③ 育児ソーシャルサポート: 育児ストレス尺度の中の育児ソーシャルサポート (手島, 原口, 2003)。
- ④ 産後うつ傾向: Edinburgh postnatal depression scale (EDPS) の中国語版 (Lee, Yip & Chiu, 1998)。

調査時期は 2013 年 10 月~2014 年 5 月であった。

オンライン調査システムを利用して、電子調査票をインターネットで取得・提出した。第 1 回調査には、産後 1 カ月以内健康な新生児を持つ母親に対して、電子調査票のリンクをメールで送った。3 カ月後に、同じく第 1 回目の調査の参加者に回答を求めた。

## 結果と考察

### 産後うつについて

産後 1 カ月から産後 3 カ月にヘルパー利用別で EDPS の得点について検討した結果、産後経過とヘルパー利用の有無のそれぞれに主効果が認められ、ヘルパーを利用しない産婦より利用する産婦のほうが産後うつの得点が低かった。また、産後 3 カ月では両群の抑うつ傾向が減少しており、ヘルパーを利用することでより低い抑うつの値を維持する効果があると言える。

### ストレスについて

HPSS 尺度について検討の結果、下位尺度の「mother role attainment (母親役割達成) と「body changes (体形変化)」で産後経過の主効果が認められた。「social support (ソーシャルサポート)」で産褥期利用の有無の主効果が認められた。尺度全体に産後経過の主効果が認められたが、ヘルパー利用の有無の主効果が認められなかった。1 カ月と 3 カ月にヘルパーを利用する産婦はヘルパーを利用しない産婦と比べ、ストレスの得点が低く、両群とも 1 カ月から 3 カ月にかけて得点が有意に低下した。

ヘルパー利用の有無に限らず、産後 3 カ月が経過すると、産婦のストレスは軽減する傾向にあることがわかった。また、ヘルパーを利用した産婦のほうがストレスの認知の程度は産後時間が経っても低い値で維持できることも示唆している。ソーシャルサポートには、ストレスと健康レベルに影響する直接作用と心身のストレスへの緩衝作用があるといわれている。

### ソーシャルサポートについて

ソーシャルサポート尺度について検討の結果、下位尺度には産後経過に産後経過だけ主効果が認められた。「育児ヘルプ」にヘルパー利用の有無の主効果と産後経過の主効果とその交互作用がすべて認められた。1 カ月と 3 カ月にヘルパーを利用する産婦はヘルパーを利用しない産婦と比べ、有意に得点が高く、両群とも 1 カ月から 3 カ月にかけて得点が有意に低下した。

つまり、ヘルパー利用の有無に限らず、産後3カ月が経過すると、産婦のソーシャルサポートの程度が減少する傾向にあることがわかった。また、産後1カ月と産後3カ月にヘルパーを利用しない産婦より、利用する産婦のほうが得点は高かった。ヘルパーを利用することがソーシャルサポートの増強効果があると考えられる。ヘルパーは産婦に対して様々なケアを行うことで産婦のソーシャルサポートを高めていることが示唆された。

## 引用文献

小林康江, 遠藤俊子, 比江島欣慎, 雨宮幸枝, 長田保昭, 田辺勝男, 中村雄二 「1 カ月の子どもを育てる母親の育児困難感」山梨大学看護学会誌 Vol.5 no.1 page.9-16 2006

Mercer RT Ferketich SL. “Experienced and inexperienced mothers’ maternal competence during infancy. Res Nurs Health. 1995 Aug;18(4):333-43.

Halbreich U, Karkun S. “Cross-cultural and social diversity of prevalence of postpartum depression and depressive symptoms” . J Affect Disord. 2006 Apr;91(2-3):97-111. Epub 2006 Feb 7.

厚生労働省 保健福祉動向調査 2002

罗煜, 王满鳳 “応用 PDCA 循環法培訓母嬰保健護理員效果觀察. ” 湖南省婦幼保健院, 中国婦幼保健, 2005, 3.

手島聖子, 原口雅浩 「乳幼児健康診査を通した育児支援：育児ストレス尺度の開発」福岡県立大学看護学部紀要1, 15-27, 2003

Chich-Hsiu Hung “The Hung Postpartum Stress Scale” JOURNAL OF NURSING SCHOLARSHIP, 2007; 39:1, 71-74. C2007 SIGMA THETA TAU INTERNATIONAL.

Lee, D.T.S., Yip, S.K., Chiu, F.K., Leung, T.Y.S., Chan, K.P.M., Chau, I.O.L., Leung, H.C.M. & Chung, T.K.H. (1998). “THE EDINBURGH POSTNATAL DEPRESSION SCALE (TRANSLATION - CHINESE) ” Detecting postnatal depression in Chinese women. British Journal of Psychiatry, 172, 433-437.